

Wood Letter

Ψ moku推し Ψ

令和8年10月vol.64

森林環境譲与税 ご担当者の皆様へ

平素より、東京の木 多摩産材をはじめ国産木材の利用推進についてご理解及びご協力をいただき誠にありがとうございます。

10月に入り、多摩の山も朝晩はひんやり、木の香りが心地よい季節となりました。

一方、この夏から秋にかけては各地で長雨や水害、土砂災害が相次ぎました。東京都心でも史上最長の37日間連続降雨を記録しました。雨水をたっぷり蓄え、土砂の流出を防ぐ「緑のダム」も森の大切な仕事。間伐などの日頃の手入れの積み重ねが、災害に強い森を育み、私たちの暮らしを守ります。多摩産材をはじめとする国産木材を使うことは、その森の手入れを応援すること。秋の深まりとともに、身近なところから、皆様の「木づかい」を広げていただければ幸いです。

ということで今月も“Wood Letter Ψmoku推しΨ”vol.64をお届けいたします。ぜひともご参照いただき、貴団体内の関係する部署にも転送いただくなどご協力をお願い申し上げます。

：森づくり推進担当一同：



あきる野市林道星竹線主伐地

（１）10月は「木材利用促進月間」です -「木づかい」の輪を広げましょう-

10月は「木材利用促進月間」です。10月が月間となったのは、10月1日に施行された「都市（まち）の木造化推進法（改正木材利用促進法）」に由来します。また、「十」と「八」を組み合わせると「木」になることから10月8日が「木の日」とされており、木材利用の普及啓発に最もふさわしい月として10月が位置付けられています。

木を使うことは、森林整備やCO2の貯蔵、地域産業の活性化につながります。伐り時を迎えた多摩の森で「伐って・使って・植える」循環を回す原動力が、皆様の木づかいです。

学校・公園・図書館・庁舎など身近な公共施設の木造化・内装木質化や、什器・備品の木材への切替は、森林環境譲与税の使途の趣旨に沿った木材利用の取組です。

さらに、多摩産材を使った新築・改修及び什器等は、「とうきょう森づくり貢献認証制度」により二酸化炭素の貯蔵量を認証でき、「トンCO2」という数値で取組の成果を示すことができます。

詳しくは東京都産業労働局ホームページ：[「とうきょう森づくり貢献認証制度」](#)をご覧ください。



あきる野市「フレア五日市」

（２）木材利用推進方針の策定

8月1日に目黒区が木材利用推進方針を策定し、東京都は62団体中39団体が策定済となり、策定率は63%となりました。まだ策定のお済みでない自治体は、ぜひ積極的な方針策定の取組をお願いします。

方針を定めることで、庁舎・学校・保育園などの整備や改修の際に「まず木造・木質化を検討する」という基準が庁内で共有され、木材利用の取組を組織として継続的に進めやすくなります。大規模な木造建築が前提ではなく、内装の木質化や什器・備品への多摩産材の活用など、規模に応じた取組から位置付けている例も多くみられます。

方針への位置付けは、森林環境譲与税を活用した事業の目的や効果を住民・議会に説明する際にも役立ちます。策定事例のご相談は、森づくり推進担当までお問合せください。

＜東京都の木材利用推進方針策定済み区市町村＞（令和8年10月1日現在）

新島村、	神津島村、	港区、	日野市、	檜原村、	日の出町、	江東区、	品川区、
あきる野市、	豊島区、	青梅市、	足立区、	八王子市、	福生市、	中野区、	世田谷区、
渋谷区、	清瀬市、	葛飾区、	江戸川区、	武蔵野市、	三鷹市、	多摩市、	杉並区、
板橋区、	大田区、	台東区、	東大和市、	国立市、	東久留米市、	昭島市、	奥多摩町、
千代田区、	町田市、	国分寺市、	武蔵村山市、	羽村市、	文京区、	目黒区	

(3) 令和8年度第1回「自治体職員 多摩産材流通現場等見学会」参加者募集

8月号でご案内した「多摩産材流通現場等見学会」について、お申込みを引き続き受け付けておりますので、改めてご案内します。第1回は**10月30日(金)に開催**します。

募集定員は20名(先着順)で、申込期限は**10月8日(木)**までです。森林整備現場や多摩産材利用施設を見学できる絶好の機会ですので、この機会にぜひご参加ください。

参加をご希望の方は、送付済みの案内メールに添付の申込書に、必要事項をご記入の上、下記メールアドレスまでお申し込みください。申込書が必要な方は森づくり推進担当までご連絡ください。

申込先メールアドレス：S0000488@section.metro.tokyo.jp

第1回(10月30日金曜日)

9時50分(JR五日市線 武蔵五日市駅 集合)～16時30分(JR青梅線 河辺駅 解散)

<見学予定場所>

- | | |
|-------------------|--------------|
| ①森林整備現場 | (森林整備現場見学) |
| ②フレア五日市 | (多摩産材利用施設見学) |
| ③日の出試験林 | (試験林見学) |
| ④青梅市 風の子・太陽の子広場 | (多摩産材利用施設見学) |
| ⑤東京都農林水産振興財団 青梅庁舎 | (採種園見学) |

※第2回の見学会は11月25日(水)を予定しています。10月中にご案内の予定です。

(4) FORESTRISE 2026(第5回次世代森林産業展)

9月16日(水)から18日(金)まで、東京ビッグサイト東2ホールで「FORESTRISE 2026(第5回次世代森林産業展)」が開催されました。林業機械・ICT・木質バイオマス・苗木生産など、川上から川下までの最新技術が一堂に集まり、平日にもかかわらず多くの来場者でにぎわっていました。

今年の特徴は、生産性や安全性の向上に加えて、「軽労化・省力化」を前面に打ち出した展示が数多く見られたことです。会場で特に目を引いた展示をご紹介します。



会場出入口
3日間で多くの来場者が訪問



苗木・造林関連のブース
無花粉スギも展示



枝打ちロボット「eddy」など、
高所作業の無人化技術



森林総合研究所 圧縮・軟化技術
で木板をお椀型に変形



斜面や谷での集材を手軽にする
「シンプル架線」



出展者プレゼン会場 中高層木造
建築の最新動向を紹介

FORESTRISE 2026の詳細は公式サイト(<https://www.forestrise.jp/2026/index.html>)をご覧ください。

（５）多摩産材利用促進プロジェクト 令和７年度事例

「公共施設への多摩産材利用促進プロジェクト」事業の令和７年度活用事例をご紹介します。
東京の木 多摩産材と触れ合う場を創出し、更なる利用拡大を図るため区市町村によるモデル的な公共施設整備に対して支援するこの事業は、令和７年度は１６区市町村２３事業に対し活用されました。

今回、世田谷区立図書館の什器整備、品川区立公園及び区民農園の木製ベンチ整備、葛飾区立公園の木製外構施設整備を紹介します。

世田谷区事例

什器整備（梅丘図書館）



岩型ベンチ



クロスメディアベンチ



絵本書架



幼児用 円形テーブル・スタッキングチェア

品川区事例

木製ベンチの整備



区民農園「マイガーデン豊町」



五反田児童遊園

葛飾区事例

公園 木製外構施設の整備（柴又公園）



門扉



門扉・木柵



門扉・木柵



木柵・PRプレート



木柵



縦格子柵

（6）第43回「木と暮らしのふれあい展」を開催します

東京都は、木のぬくもりややさらかさ、森の大切さを知っていただき、暮らしの中で木を使っていただくため、第43回「木と暮らしのふれあい展」を開催します。会場には、東京の木・多摩産材をはじめ日本各地の木材が集まり、木工作などの体験、木製品の展示販売、キャラクターショーなど、ご家族で楽しめる催しを実施します。皆様のご来場をお待ちしています。

【日時】 令和8年10月24日（土）および25日（日）10時00分～16時00分

【会場】 都立木場公園イベント広場

東京メトロ東西線 木場駅下車 徒歩10分

* 詳しくはWEBへ

<https://www.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2026/09/2026090110>



(7) MOCTION 企画展示

木材の大消費地である東京でのさらなる木材利用の拡大に向け、国産木材の魅力を発信する拠点「MOCTION（モクション）」では全国各地の木材製品の展示が行われています。

7月2日～7月14日 青森県



「青森ヒバ」などの県産材から生まれた、家具や木製窓、サッシ、楽器などを展示。かつて森に立っていた木々が、今は暮らしの名脇役として活躍している。

7月16日～7月28日 岩手県



多様な樹種を活かした木材利用と森林資源の循環を紹介。なかでも森林火災から森林再生を目指し、被災木の利活用を進める、「TEAM森林再生大船渡」の取組が印象的だった。

7月30日～8月18日 山梨県



木製玩具や雑貨、創作家具、食器や檜チップを活用した枕など暮らしの中で使われる様々な木製品が並び、木の温もりと森とのつながりが身近に感じられた。

8月20日～9月1日 兵庫県



「遊ぶ」をテーマに、木の香りや手触りを楽しめる木材標本をはじめ、音を奏でる階段や木製雑貨、おもちゃが並び週末は子供たちで賑わい「ひょうごの木」の魅力が感じられた。

10/1～13は岡山県、10/15～27は秋田県の企画展示が開催されます。
皆様のご来場をお待ちしています！

ちょこっとコラム（ご存知でしたか？こんなこと） ”都市に広がる森 ービルも木で作る時代にー”

木材の繊維や木粉の特性を活かした新素材の開発が進み、強度が高く環境にもやさしい建材が次々と生まれています。こうした素材を住宅やビルの建材として使い、都市の中に「森」を作ろうという取組が広がっています。

なかでも注目されているのが中高層木造建築です。ノルウェーでは2019年、当時世界最高層となる18階建ての純木造に近い高層ビルが完成し、大型木質建材であるCLT(cross laminated timber)が活用されました。CLTはひき板（ラミナ）を、繊維方向に直交するように重ねて接着した木材で、直交集成板とも呼ばれ、高い強度を持つことから、大規模建築への利用が世界各地で進んでいます。

日本でも木造建築の高層化が進んでいます。現在、国内で最も高いビルは、横浜市にある純木造の11階建て「Port Plus」ですが、2027年1月には日本橋で18階建ての木造ハイブリッドビルが完成する予定です。木の新素材と建築技術の進歩によって、都市の景色はこれからさらに変わっていくかもしれません。



CLT(直交集成板)
提供：日本CLT協会

「WOOD LETTER Moku推し（ウッドレター モクオシ）令和8年10月vol.64」

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 東京都庁第一庁舎21階中央
東京都産業労働局農林水産部森林課 森づくり推進担当
TEL03(5000)7198(直通) 担当: 秋葉、高居、小山、中田、中村

森林環境譲与税はもとより、多摩産材の利用等東京の森林・林業に関することにつきましてもお気軽にお問合せください。